

敬和会と地域をつなぐ広報誌【リンク】

Link

vol.12 夏号

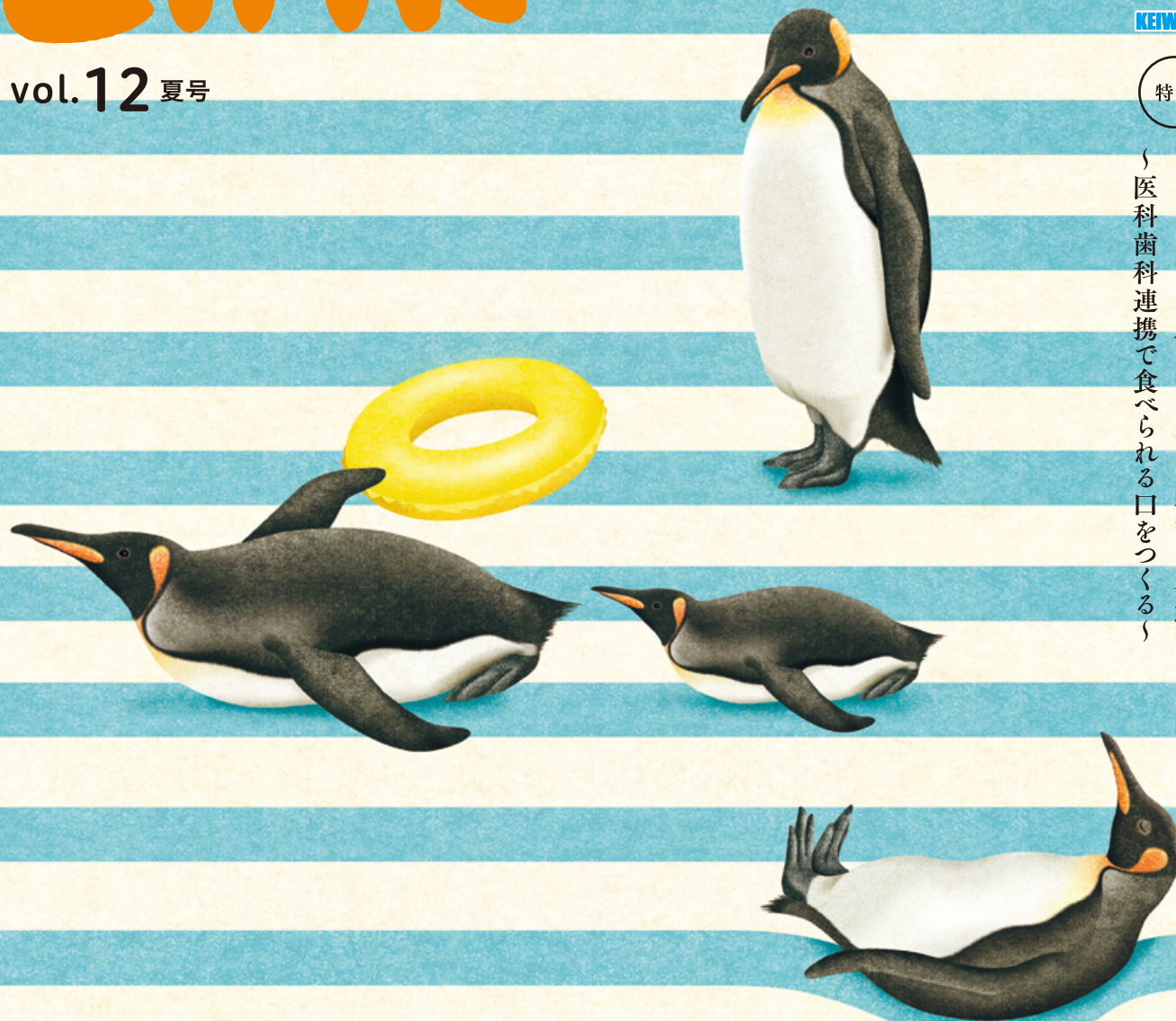
take free

ご自由にお持ち帰りください



特集

口から広がる生活支援
～ 医科歯科連携で食べられる口をつくる ～



口から広がる生活支援

『医科歯科連携で食べられる口をつくる』

義歯が合わず、噛む力が弱くなった。そのせいで、食欲が落ちてしまった。口が開きにくくなり、思うように話ができなくなってしまう。口腔環境の悪化で、満足に食べることができず、体力が落ちてしまうだけでなく、命にかかわる病気にまでつながってしまうこともあります。大分豊寿苑では、地域の歯科医師の協力をいただき、『医科歯科連携』の活動を通じて、食べられる支援に取り組んでいます。

『食べられる支援』を地域に広げよう

医科の医師と歯科の医師、これまで交流が少なく、連携が難しい環境にあった医師同士が協力し、看護師や歯科衛生士、介護福祉士、リハビリスタッフ、管理栄養士などの多職種の専門スタッフと一つのチームになって、患者さんを診療する「医科歯科連携」が注目されています。

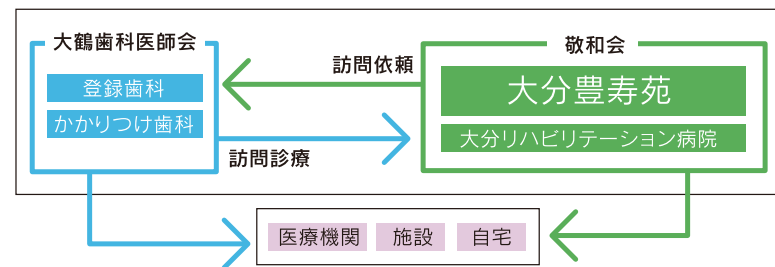
当苑では、2014年から医科歯科連携を取り入れ、大鶴^{だいかく}歯科医師会に登録している地域の歯科医師に訪問診療を依頼し、利用者さんの歯科治療や口腔環境の改善を行っています。

医科歯科連携の中心となつて動いているのが、歯科衛生士です。当苑の歯科衛生士は、まず、入所した利用者さんの口の中を確認します。口腔ケアが必要な場合、ご家族へ説明を行い、歯科医師に

訪問診療の依頼をします。さらに、利用者さんの医療情報を歯科医師へ、歯科医師の治療計画を主治医へ渡し、その指示内容を現場のスタッフへ伝えます。このように歯科衛生士が間に入り、主治医、歯科医師、関係スタッフと情報共有を図り、利用者さんの虫歯の治療だけでなく、歯周病予防や差し歯、入れ歯などの調整を行い、食べること、噛む力、飲み込む力など、口の機能回復を目指します。

歯科診療と合わせて、口腔環境をきれいに保つ口腔ケア、食べる姿勢を整えるリハビリテーションの3つを同時に行うことが大切です。口の中を整えるだけでなく、口、舌、あご、のどなどの口周り、それにつながる顔や首、肩、背中、筋肉など身体すべてを調整して、食べられる口がつけられます。

医科歯科連携



なりやす歯科医院

院長 成安 聖司

訪問診療を始めて思うことは、まだまだ歯科領域ではなくてはならない仕事がたくさんあるということです。訪問先では、自院の診療室では気付けないことが数多くあります。それゆえ、困難な場面もありますが、自分のため、利用者さんのためにも精進を続けていきます。



敷戸グリーン歯科

院長 山原 幹正

回復期リハ病院である大分リハビリテーション病院、生活期である大分豊寿苑へ定期的に訪問診療を行っています。さらに居宅に戻った利用者さんへの継続的治療も重要です。診療室へ通うことができない利用者さんにどのように対応するのか。歯科に課せられた大きな問題ですが、診療室で待つだけでなく、外に出かける課題でもありと考えています。



口から食べることをあきらめない 連携している歯科医師に聞く

はっぴい～歯科・小児歯科

院長 三宮 一仁

医科歯科連携は、国の政策としても、地域を支える医療として、今後は利用者さんからの需要が多くなる事業だと思います。高齢者の方々の口腔を改善し、噛めるようになることは、その方やご家族の幸せの第一歩です。今後は、敬和会のスタッフの皆様とともに利用者さんに愛されるチームになり、往診に深く関わる歯科医師が増えることを切に願います。



おかはら歯科医院

院長 岡原 圭三

私たちが高齢者施設で診察をする意義は、何より食べられる口と笑顔を取り戻すことです。同じ思いを持った多職種連携の下で診ることで、これまでより診療のペースも広がり、喜びを皆で分かち合えることが大変嬉しく思います。高齢者や有病者にとって、歯科とリハビリは本来一体のものであり、より密な多職種間の連携と更なる研鑽を通して、多くの方の笑顔につなげていきたいと思っています。



(表①)口腔ケア方法の違いによる肺炎発症率

	黒岩メソッド	従来の口腔ケア
人数	287	248
肺炎発症者数	14	28
肺炎発症率	0.048	0.112

従来の口腔ケアを実施していた時期に当苑に入所していた248名(2015年12月31日までに退所)と黒岩メソッドがほぼ定着した時期に入所していた287名(2017年11月30日までに退所)の比較

患者さんに生きる力を与える口腔リハケア

大分豊寿苑では、口腔ケアを行うにあたり、第一人者でもある歯科医師の黒岩恭子先生の指導を受け、黒岩メソッドという『口腔リハケア』を実践しています。口腔内の食べ残しや細菌を、「モアブラシ」を使って取り除くことで唾液の分泌が増え、自浄作用の働きを回復させます。唾液は消化を助け、口の中を清潔に保ってくれるだけでなく、喉に溜まった痰を出しやすくして、喉の痛みを緩和するなど、口腔ケアに重要な役割を担っています。

また、体幹を鍛え、飲み込む力や咳ができる力をつけるリハビリを行うことで、高齢者の死因の上位にある誤嚥性肺炎^{ごえんせい}を予防できるようになります。このように口腔ケアとリハビリ



黒岩先生が開発された口腔ケアツールの一つ「モアブラシ」。超やわらかブラシで口腔粘膜の清掃がやさしくできる。

今後も行っていく予定です。

当苑では、地域の歯科医師の協力をいただき、利用者さんの退所後も引き続き、口腔ケアを続けています。また、ご家族へも在宅で口腔ケアを継続していただけるように、定期的な研修会や指導を行っています。

大分豊寿苑利用者・奈須さんのケース

2016年6月に奈須直美さん(男・70歳代)は大分豊寿苑に入所してきました。当初、口からの食事はできず、胃に直接栄養を送る注入食で、痰の吸引は頻回、寝たきりで介助が必要な状態でした。入所後、口腔リハケアを開始。体幹筋を鍛え、正しい姿勢で座れるように身体調整のリハビリを行うと同時に、モアブラシなどを使って口腔内を清潔にし、舌や粘膜の乾燥を防ぐために唾液を分泌させるマッサージを行いました。5か月後の退所時の奈須さんは、車イスに座り、口から食事を摂り、笑顔を見せられるまでに回復していました。

ここまで回復できたのは、希望を持ち、あきらめずに支え続けたご家族の熱意と、その思いに寄り添ってケアを続けたスタッフと、そして何より回復して「家に帰りたい」と切に願う奈須さんご本人の意思があったからです。今でも、家族が支え、入居中の有料老人ホームで口腔ケアを続けています。



奈須直美さんご家族
(北村清一郎教授は黒岩メソッドが解剖生理学的にどう効果があるか検証し、エビデンス(根拠)を説明することで黒岩先生をサポートされています)



介護老人保健施設での口腔ケア



歯科医師 黒岩恭子先生

口腔機能維持と回復のための独自の口腔ケアを開発。治療だけではなく、舌や口の粘膜をマッサージするリハビリを行い、患者さんの心に寄り添う口腔ケアで、心身の健康を考えたケア「黒岩メソッド」を実践しています。

2つのセンターをつなぐ 血管内科 診療開始



大分岡病院では、慢性創傷の原因を調べ、治りにくい傷を治療する、創傷ケアセンターを2004年に開設。下肢救済（足を救う）に特化した、日本ではまだ珍しい※一施設完結型の治療を行っています。

足の傷と言ってもさまざまで、その

原因の多くは糖尿病や慢性腎不全、下肢の血流障害などの病気です。そのため、循環器内科、心臓血管外科、糖尿病内科、腎臓内科など、多くの診療科と協力して治療することが必要です。当院では、形成外科を※ゲートキーパーとして、これらの診療科と緊密な

関係を持ちながら傷の治療を行ってきました。形成外科が主治医ですので、糖尿病患者の血糖管理や透析患者の体重の調整など、不得手な内科的管理も形成外科医がやってきました。

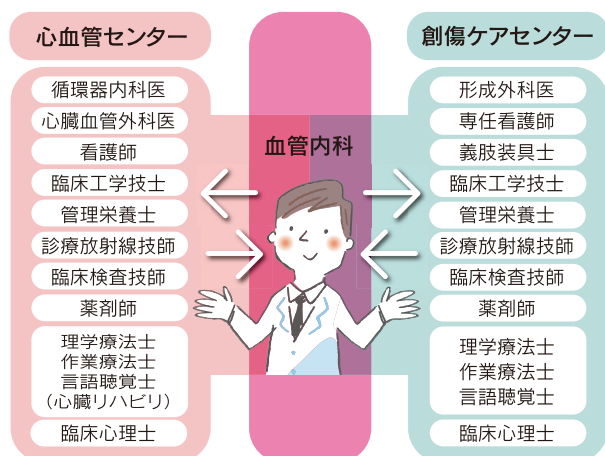
内科と外科それぞれが得意とする分野を活かした治療ができないかと考え、2018年4月から「血管内科」を新設。心血管センターの循環器内科医・石川敬喜医師が「血管内科」の専任となつて、創傷ケアセンターの入院患者の治療に積極的に参加することになりました。

「これまでも末梢動脈疾患の診療に携わってきましたが、循環器内科医としての診療は心臓疾患が主体です。しかし循環器疾患の一つである末梢動脈疾患の最も重症の患者さんは創傷ケアセンターを受診しています。本来、循環器内科で診るべき末梢動脈疾患が原因で発生した傷を、創傷ケアセンターが治療しているのが現状です。異なる診療科の間で、院内連携には自信のある当院でも、この科で治療するのか難しい面がありました。血管内科の医師として創傷ケアセンターに関わることで、以前よりも形成外科との意思疎通がスピーディーになり、看護師やリハビリスタッフから直接相談を受け、患者さん

に必要な内科的治療が早くなりました。その結果、創傷ケアセンターの患者さんは早く退院を迎えられるようになりました。」と石川医師は言います。

血管内科医が創傷ケアセンターと心血管センターの異なるセンター間の橋渡しを行うことで、患者さんにとってはより万全な体制で治療が受けられ、入院期間も短くなっています。

足の冷えやしびれなどが気になる方は、一度、血管内科にご相談ください。



※一施設完結型 診察から治療・手術、傷が治るまで一貫して一つの施設で治療を行うこと。
※ゲートキーパー 病院では最初に診療を行い、他科との調整をしながら治療を進める主治医。

「共に地域を育み 共に暮らす」 私たちも地域社会の一員です。

2017年4月、大分リハビリテーション病院は、大分県から地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受けました。大分県やリハビリテーションの関係職能団体、医療機関が協力して、地域の実情を把握し、地域住民の相談や支援、地域のリハビリ施設で働く人向けの研修や相談などを行っています。

地域リハビリテーションとは、急性期のリハビリや回復期のリハビリといったものだけではなく、障がいのある子どもや成人・高齢者とその家族が、住み慣れた場所で、一生安全に、その人らしく、いきいきとした生活ができるよう、地域と医療機関がリハビリテーションの立場から協力して行う行動のすべてのことです。

その活動の一部に、入院中や退院後の患者さんとご家族を対象とした『患者家族会』があります。これまで3回開催し、口腔ケア、排せつの介助、認知症の家族への接し方を、参加した患者さんやご家族に学んでいただき、地域の方々の相談の場、交流の場となっています。

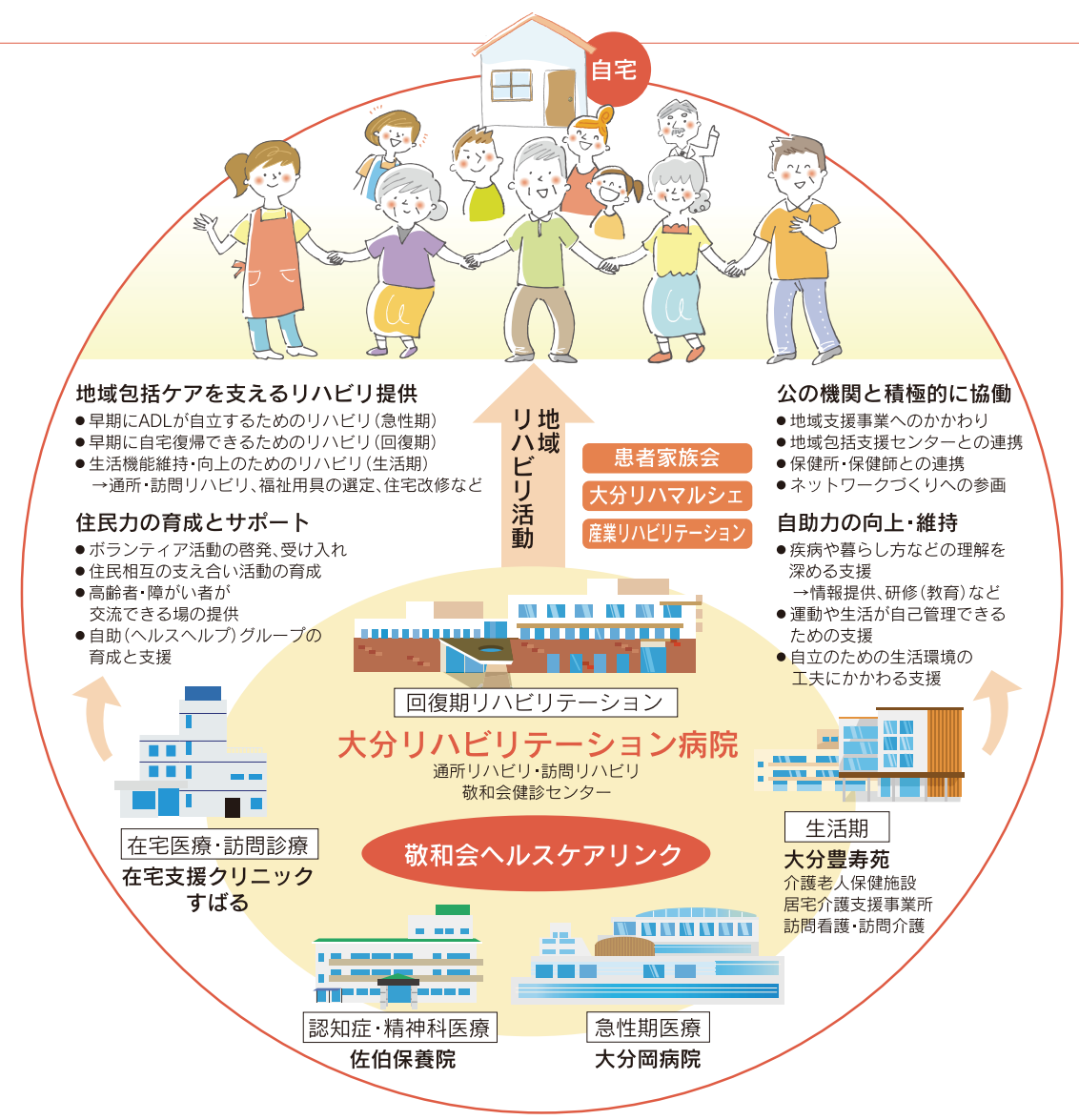
第3回目の家族会では、勉強会の後に座談会を行い、病気になった配偶者や親に対する戸惑い、介護に関する悩みなどを語っていただきました。悩みは

さまざまですが、皆さんが口をそろえて言うのは、『悩みや不安を誰かに聞いてほしい』ということでした。同じ境遇の人たちだからこそ分かりあえる内容で、共感する場面も多くありました。

この会の中で、家族で旅行に行く方法を知りたいという声が上がりました。旅行好きだった患者さんと一緒に家族で旅行に行きたい、一緒に楽しみたいというご要望に応え、リハビリテーション旅行の計画を立てています。この旅行を通して、再び外出する喜びを感じ、自信をつけてもらいたいと考えています。

私たちは、医療・介護・リハビリの専門知識を持った地域社会の一員として、「共に地域を育み、共に暮らす」をテーマに地域リハビリテーション活動を積極的に行い、共に※住民力を高めていくように邁進いたします。

※住民力 介護や生活支援などにおいて、自立して生活できる力(自助力)と地域で助け合いお互いにサポートする力(互助力)を地域全体、地域住民同士で協力しながら高めていくこと。



地域社会の一員として、共に地域を育み、共に暮らす

地域の中で安心して 生活が続けられるための地域連携

高齢者の一人暮らしや「老々介護」が増え続ける中、要介護度が高い方や家族の介護が難しい方など、在宅療養ができてにくい環境にいる方が増加しています。介護を必要とする方は、病院を退院しても、自宅で痰の吸引や医療機器を利用するなどの医療処置が継続的に必要な場合や、高齢者世帯で介護に不安や負担がある場合が多いというのが現状です。そんな方でも安心して在宅療養ができるように、看護小規模多機能型居宅介護『そら』を開設しました。

2018年4月1日に開所した『そら』は、24時間365日「通い」「泊り」「訪問看護」「訪問介護」の4つのサービスを提供しています。大分豊寿苑訪問看護ステーションと協働で運営を行い、看護とリハビリ、介護を組み合わせ利用することができま

す。病院を退院後『そら』を利用する方には、退院前にスタッフが病院に出向き、主治医や看護師、リハビリスタッフから入院中の治療内容や今後の治療方針などの情報を収集します。可能な限



り、利用者さんが入院前の生活や希望する生活を送れるように、ソーシャルワーカーやケアマネジャーと相談して、在宅での環境（治療や生活に必要なサービス）を整えます。退院後、医療面では主治医や協力医療機関が連携した治療が受けられます。生活面では住み慣れた地域や自宅で生活が送れるように介護士や看護師の支援が受けられます。また、利用者さんの「最後まで家で暮らしたい」や、家族の「家で看取りたい」という思いを尊重して、通いや泊まりのサービスを組み合わせることもできます。

今後は、家族や地域住民の方々との交流を増やして、地域全体でお互いに支え合える関係をつくっていくことが、私たちの目標です。

地域連携で 認知症の患者さんをサポート

2008年に認知症疾患医療センターの運営事業が開始され、現在、全国に375か所、大分県には8か所の認知症疾患医療センターが設置されています。

認知症疾患医療センターとは、認知症の患者さんとその家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるための支援の一つとして、都道府県や※政令指定都市が指定し設置する認知症専門の医療機関です。認知症疾患の早期診断での適切な治療、尊厳を保ちながらその人らしい生き方ができるための支援、精神症状の対応についての相談などを行っています。

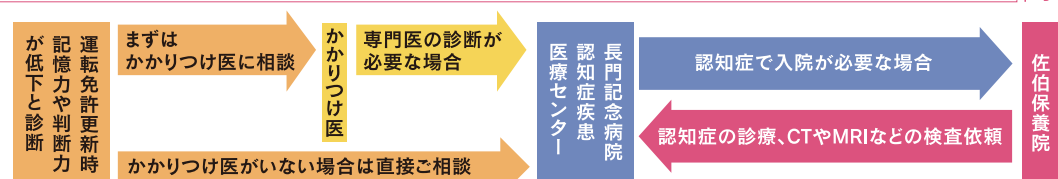
佐伯市にも認知症疾患医療センターが設置されることになり、行政は佐伯市唯一の精神科病院である佐伯保養院にこのセンターを設置しようと考えていました。佐伯保養院も設置に向けて検討を始めました。

しかし、認知症初期の人が精神科病院を訪れるには、抵抗を感じるのではない

か、認知症を発症する高齢者は身体疾患を持っていることが多く、疾患によつては治療が難しい場合があるなどの問題が上りました。

これらの問題を解決するには、認知症疾患医療センターを精神科単科病院の佐伯保養院でなく、多くの診療科を持つ佐伯市中心部の一般病院に設置し、佐伯保養院から定期的に専門医が出向いて診療する方法がよいのではないかと結論に至りました。そしてこの要望に応えてくれたのが社会医療法人長門莫記念会 長門記念病院（250床）でした。大分県で精神科病院ではなく、一般病院に認知症疾患医療センターが設置されているのは佐伯市だけです。

設置当初より、佐伯保養院の廣瀬就信院長が月2回、長門記念病院を訪れ、認知症の患者さんの診療を行っています。診療の結果、入院を必要とする患者さんについては、佐伯保養院で受け入れるというシステムを作り、両病院が連携（病病連携）して、佐伯市の認知症患者さんとそのご家族を支えています。



※政令指定都市 人口50万人以上の大都市で、特例などの特別な権限を持つ。現在20都市が指定されている。



1人分 エネルギー218kcal／塩分1.4g

【材料】4人分

豚バラ肉	200g	乾燥刻み昆布	8g	酒	大さじ1
大根	200g (1/5本)	だし汁	カップ1	塩	小さじ1
人参	80g (1/2本)	ねぎ	お好みで	生姜(チューブ)	大さじ1/2
				豚バラ肉下味用 塩・酒	少々

【作り方】

- 1 豚バラ肉は一口大にカットし、塩・酒少々を振る。大根・人参は乱切りにカットする。刻み昆布は水洗いし、水気をきる。
- 2 豚肉を炒め、余分な油は拭き取り、大根・人参・刻み昆布を入れ、酒・だし汁・生姜を入れる。
- 3 野菜が煮えたら塩を入れる。お好みでねぎをのせる。



【豚肉】

豚肉は、牛肉や鶏肉に比べてビタミンB1を多く含みます。ビタミンB1は糖質の代謝を助け、疲労回復効果があります。



【刻み昆布】

昆布は、カルシウムや水溶性食物繊維を多く含みます。ミネラルが豊富で、血圧・コレステロール・血糖値低下に効果があるとされています。また旨味成分であるグルタミン酸も多く含んでいます。

主菜になるスープ【南国沖縄料理】 豚肉と刻み昆布で簡単ソーキ汁

敬和会管理栄養士の
とっておきの
レシピ

沖縄料理のソーキ汁を、豚バラ肉と刻み昆布で手軽に調理できる工夫をしました。夏の暑さで疲れた胃腸を温かいスープでいたわってみてはいかがでしょうか？



管理栄養士
高橋綾奈さん

フォーカス

VOL.10

あなたのことをもっと知りたい。敬和会で働く輝く人にインタビュー！

患者さんに寄り添ってサポート

医療事務として勤務していた私ですが、2017年からはクリニックを飛び出してメディカルアシスタントとは、施設や利用者さんの自宅に向いて医療を行う医師や看護師をサポートする仕事です。他にも月2回行われるレントゲン撮影で、施設や自宅に訪問する際の機材の準備や搬入、診療放射線技師の補助なども行っています。訪問先では、患者さんやご家族との信頼関係を大切にしています。患者さんやご家族の中には心の内を医師に伝えられず悩んでいらっしゃる方もいます。そんな患者



在宅支援クリニックすばる
メディカルアシスタント
(ケアマネジャー、栄養士) 合林 靖子さん

さんやご家族に寄り添いながら悩みを伺い、医師との橋渡しもしています。私の楽しみはお昼のモグモグタイムです。取り寄せた大好きなお饅頭をスタッフみんなで一緒に食べることです。これがあので、午後からの仕事も頑張れます。今後患者さんのことを考え、スムーズに診療できるように、ケアマネジャー、栄養士の経験を活かし、診療のサポートをしていきます。また、新たなキャリアアップとして、メディカルコーディネーターを目指しています。



この街・この人

京の伝統工芸、日本刺繍の魅力を伝えたい。日本刺繍の教室とアトリエ月舟を主宰する田口さんにお話を伺いました。

田口 玲子さん

14年前、ご主人の転勤で住んでいた関西で日本刺繍と出会う。2017年12月大分への帰郷を機に自宅に教室とアトリエ月舟を開設。



—日本刺繍の良さは何ですか？
刺繍との出会いは、主人の関西転勤時にたまたま教室があることを知り、娘の半襟を作りたくて入会したのがきっかけでした。それ以来刺繍の魅力にとりつかれています。つらい事があった時、いつもそばにあつて支えてくれたのが刺繍でした。刺繍をしていると、糸の艶やかな色、絹の肌触りなどを直に感じ、

—日本刺繍について教えてください。
日本刺繍は、一本の針と多色の絹糸を使って布地などに模様を縫い表す装飾技法で、着物や帯をはじめ、伝統芸能の能や狂言の衣装などにもどこか使われています。伝統文化である日本刺繍は日本各地にありますが、京都の刺繍は、絹の刺繍糸が3千〜4千色、針は太さにより15種類、縫い方の技法は百にも及び、雅な文化を反映した繊細で優雅な伝統工芸のひとつです。

—今後の夢を聞かせてください。
月2回教室を開いています。生徒さんの作品で展覧会を開きたいと思っています。また、いろいろな分野の方とコラボして新しいものを生み出すことができればと考えています。そして、日本刺繍の良さをもっと多くの人に知ってもらいたいです。見るだけ、おしゃべりするだけでも結構ですので、気楽にお立ち寄りください。



日本刺繍
京都西陣「中村刺繍」大分教室
アトリエ 月舟
大分市志村2-3-19 TEL:097-507-9702
開催日／第2・4火曜日 10:00～12:30



山口内科胃腸クリニック

院長 山口 公雄先生

ON TIME 私の OFF TIME

頼れる地域のドクターの意外な一面！



写真はイメージです



クリニックのロゴマーク

いつかはクルーザーに乗りたい

開業して15年が経ちます。この15年間の休日の多くは子どもたちのサッカーの応援に行つて過ごしていました。そのおかげで、県内外の色々な所へ行き、多くの人と出会い、有意義な時間を過ごせました。しかし、今年5月、いちばん下の高校3年生の息子のサッカーの試合を最後に、応援も終了しました。時間の空いた休みの日に、これから何をしようかと考えていたら、昔の夢を思い出しました。「いつかは、クルーザーに乗りたい。」若い頃に持った夢です。開業前の時間を利用して、小型船舶1級の免許を取りに行きました。最初の頃は、雑誌を買って色々と空想をしたものです。しかし、開業後の

日々の仕事に追われ、夢のことを思い出すのは、5年ごとの免許の更新の時だけでした。今回、時間ができたことで、その夢を実行に移したくなりました。そのためには、やらなくてはならない事がいっぱいあります。まず、妻を説得すること。海は危ないと反対してくるでしょう。次に資金です。今から貯蓄して間に合うでしょうか？それから、もう一度、船の操縦の勉強をし直さなければなりません。それらを一つずつクリアしていきます。夢を実現したいと考えています。今度は船で色々な場所に出かけてみようというワクワクしています。

心が豊かになります。

またひと針ひと針縫っていると無心になり心が落ち着きます。作品が出来上がると楽しくなります。現在、老人ホームでボランティアをしています。高齢者の方が刺繍に生き生きと取り組む姿を見て無限の可能性を感じるとともに、刺繍をきっかけに少しでもお役にたてたいという喜びを感じています。

社会医療法人敬和会



大分岡病院

大分岡病院 検索

〒870-0192 大分県大分市西鶴崎3-7-11
TEL.097-522-3131(代)
TEL.097-503-5033(コールセンター)
FAX.097-503-6606



大分
リハビリテーション病院

大分リハビリテーション病院 検索

〒870-0261 大分県大分市志村字谷ヶ迫765番地
TEL.097-503-5000(代) FAX.097-503-5888
敬和会健診センター TEL.097-503-5918



介護老人保健施設
大分豊寿苑

大分豊寿苑 検索

〒870-0131 大分県大分市皆春1521番地の1
TEL.097-521-0110 FAX.097-521-1247



在宅支援クリニック
すばる

敬和会すばる 検索

〒870-0147 大分県大分市小池原1021
TEL.097-551-1767 FAX.097-551-1722



佐伯保養院

佐伯保養院 検索

〒876-0814 大分県佐伯市東町27番12号
TEL.0972-22-1461 FAX.0972-22-3063

敬和会 Topics

入場無料

第8回世界ハートの日 市民公開講

申込不要

「健康寿命を延ばそう!～心臓からのサインを見逃すな～」

最近、息切れがする。年のせい? もしかすると、弁膜症かも!? 一日約10万回の収縮と拡張を繰り返す心臓からのサインをきちんと受け取っていますか? 心臓のこと、もっと大切にしましょう。

【日 時】9月24日(月・祝) 午後1時～4時(開場/午後12時30分)

【場 所】J:COM ホルトホール大分 3階大会議室

【内 容】●特別ゲスト「わたしの健康法」第81代内閣総理大臣 村山 富市氏

●講演1「疲れやすいは年のせい? 一心不全のはなし」

心血管センター長 循環器内科部長 永瀬 公明

●講演2「息切れは年のせい? 一心臓弁膜症のはなし」

副院長 心臓血管外科部長 迫 秀則

●特別講演「人と生き物との命のかかわり～生き物の健康管理と維持～」

大分マリンパレス水族館「うみたまご」館長 田中 平氏

【問い合わせ】戦略広報室(合澤・岡田) ☎097-522-3131(代)

〈平日午前8時30分～午後5時〉

ジャパン・マンモグラフィー・サンデー開催

乳がんは女性に最も多いがんです。子育て・介護・仕事・家事などで忙しく、平日、健診に行けない女性が、日曜日に「乳がん検診」を受けられるよう、全国で、毎年10月第3日曜日に検診を行っています。敬和会健診センターでも、この日にマンモグラフィーと乳腺エコーを実施します。ぜひこの機会をご利用ください。

【日 時】10月21日(日) 午前8時30分～正午(完全予約制)

【料 金】マンモグラフィー検査 3,800円(税込) 乳腺エコー検査 3,200円(税込)

※女性技師が対応。結果は後日郵送いたします。

【予 約】敬和会健診センター ☎097-503-5918

その他第3土曜日(午前)に人間ドック・健康診断を実施しています。
詳しくはホームページ、フェイスブックをご覧ください。

参加無料

大分豊寿苑介護教室

大分豊寿苑では、毎年介護教室を開催しています。今年は「スッキリ! 排せつのお話」をテーマに、排せつの介護やリハビリ、病気について学びます。おむつや排せつ用具の展示も行いますので、ぜひお越しください。

【日 時】10月28日(日) 午前10時～正午 【場 所】大分豊寿苑1階 ホール

【問い合わせ】大分豊寿苑(松田) ☎097-521-0110

